

第1部

文法・表現別 和文英訳

和文英訳の手始めとして、まずは文法・表現別に勉強していこうと思う。外国語学習には最低限の文法の理解は必須である。文法を無視した英文はそもそも通じないからだ。

正しい英作文を書くにあたっていちばん基本となるのは時制である。時制の間違ひは読み手に困惑や誤解を与えたり、文全体が支離滅裂な内容になるなどの諸悪の根源になる場合が多い。そこで、『例解 和文英訳教本〈文法矯正編〉』でも時制の話から始めて、時制の項目についてかなり細かく取り扱った。本書でも第1章の「時制」で最低限おさえておきたい項目をもう一度取り扱って簡単に復習したいと思う。その際に、『文法矯正編』でも書いたように、現在形、過去形、仮定法といった文法用語が学習者に誤解を与えている場合が多い。そこで、本書では〈半永久形〉や〈近い形〉〈遠い形〉といった独特の文法用語(?)を用いているが、本書の解説は要点だけを簡単にまとめているだけなので、これだけでは理解が不十分だという方は、『文法矯正編』の参照ページを読んで再確認していただきたい。

時制がある程度習得できたならば、次の課題はいくつかのお決まりのパターン(公式)を覚えてもらうことである。どんな言語にも決まり文句と呼ばれるものが存在する。ちょうど、数学の定理を暗記して、その定理に具体的な数字を当てはめて問題を解き進めていくのと同様に、言語もある程度の公式を下地にして、具体的に単語を当てはめて文を作っていると言える。それらを〈頻出表現〉と〈頻出構文〉に分けてみた。これらは第2部の「テーマ別和文英訳」でも再度登場するものだが、テーマに関係なく頻繁に現れる項目なので、第2部以降の学習をスムーズにするためにも、第1部でまとめて扱うことにした。語彙を中心にまとめたのが第2章の「頻出表現」で、構文を中心に整理したのが第3章の「頻出構文」である。なお、頻出構文と例えば、as ~ as ...のいわゆる原級やso ~ that ... / too ~ to ...構文なども含まれるが、これらの中学校レベルで習得することになっている項目は、本書を学習する皆様には自明のことと考えて外してある。

第1部はどちらかと言えば伝統的英作文教育に基づいた暗記中心の学習となるが、時制の理解に関しては革新的な要素もあり、頻出構文等を覚えることはすべての英作文の前提条件なので根気よく取り組んでいただきたい。